テイルズ　オブ　ジ　アビズ　外伝　第３章

日下　時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
テイルズ　オブ　ジ　アビズ　外伝　第３章

【Ｎコード】
Ｎ５０７１Ｑ

【作者名】
日下　時雨

【あらすじ】
テイルズシリーズから、テイルズオブジアビス、ガイラルディア・ガラン・ガルディオスこと、ガイ・セシルを抜粋。

ガイラルディア・ガラン・ガルディオスの物語

天を突き抜ける晴天が大空を埋め尽くし、軽やかな風が肌を掠めてゆく。

「ジェイド！」

そう叫びながら庭園を駆け回っているのは、ガイ・セシルだ。

本名は、ガイラルディア・ガラン・ガルディオス。

失われたマルクト帝国領土、ホド島を領土としていた名家ガルディオス伯爵家の跡取りであり、唯一の生存者である。

「ジェイド待て！」

ガイがまた叫ぶ。

その視線の先に、マルクト帝国皇帝ピオニーのペット、ブウサギが飛び跳ねていた。

世界を巻き込んだヴァンの凶行から一年の月日が流れ、ガイはピオニーの命により、本来の故郷であるマルクト帝国へ身を寄せているのである。

ピオニーのペットである、ブウサギの飼育係として。

これだけ聞けば笑い話になってしまうが、これはピオニーによっての計らいの一部である。

ホド島の消滅、ガルディオス伯爵家の崩壊、ヴァン凶行への貢献、それらを考えてゆっくりと休暇を与える事にしたのだ。

「ガイ様！ピオニー皇帝がお呼びでございます」

ブウサギのジェイドを捕まえた所で、後から駆け寄ってきた兵士に呼びかけられ、ガイが振り向く。

「何のようかな？」

「それは存じません。ただ私は至急ガイ様をお連れしろとの命令を受けただけですので」

困った顔した兵士にそれ以上突っ込まず、ガイは分かったと返事をするとジェイドを兵士に預け、ピオニーの待つ王宮へ向かった。

その広大な面積と、華やかな調度品、そして幾重にも埋め込まれた窓から差し込む陽光の眩い光が、王宮を更に厳粛的に彩っている。

その中央深くに座し待ち構えているのが、マルクト帝国現皇帝ピオニー・ウパラ・マルクト九世である。

ガイは、ピオニーの前まで行くと片膝を付き頭を垂れた。

「ピオニー様、お呼びと伺いましたが？」

「まったくいつもお前は堅苦しいな、ガイ」

ピオニーが肘掛に頬杖を付き、精悍な顔をしかめる。

「性分なんです。それにただの飼育係りがどう楽にしろと？」

「まぁいい」

ガイの問いかけを軽くピオニーが流し、話しを進める。

「ガイ、今日から正式にガイラルディア・ガラン・ガルディオスの名を継ぎ、マルクト帝国軍少将の任を命ずる」

「はい？」

「二度も言わすのか俺に？」

呆気に取られるガイにピオニーが鋭い眼光を向ける。

「いえ、ですが突然過ぎるかと。私はマルクトにおいて、未だピオニー様の飼育係りとしての実績しかないですから・・・」

ガイの言い分の方が最もだが、ピオニーに全く気にする様子は見えない。

「ゼーゼマン」

ピオニーが、隣で佇むマルクト帝国軍参謀総長ゼーゼマンに声を掛ける。

「こちらでございます」

声を掛けられるのを待ち構えていたゼーゼマンは、穏やかな足取りでピオニーに近づき、一振りの剣を手渡した。

「ガイ、少将の任と共に、これを受け取れ」

ピオニーが無造作に剣をガイへ差し出す。

即座に駆け寄り、片膝を付けながらガイがそれを受け取る。

「こ、これは・・・」

ガイの表情に驚きが広がっている。

「そうだ、ファブレ公爵家にあった、ガルディオス家の家宝、宝剣ガルディオスだ」

「どうしてこれを？」

「ファブレ公爵へ要請し返却して貰ったんだ。お前に返す為にな。そして、その時から少将になる事も決まっていた。もっと言うと、一年後には、このゼーゼマンの後継として参謀総長の任に就いて貰う。その時はジェイドの元帥就任と同時にな」

鋭いピオニーの眼光は、まっすぐにガイを射抜いている。

傍らで頷くゼーゼマンを見ても、ピオニーの言葉が真実である事は疑いようがない事は理解できた。

「私で本当に宜しいのですか？」

「ああ、軍でも話しは付いている。いつまでも老齢の人間に頼ってる訳にもいかないだろ？ここからは、お前自身がガルディオスの名

を復権させればいい。俺に出来るのはこれぐらいだしな」

「あ、ありがとうございます」

「勘違いするなよ、温情だけじゃ俺も他も納得しない。お前の力量を認めてるからこそ納得してその剣と共にマルクトの未来を託すんだ」

「かしこまりました。ありがたく引き受けさせて頂きます」

ガイは、深々と頭を垂れ、宝剣ガルディオスを胸に抱きしめた。

宝剣ガルディオスを携え、少将になったガイの活躍は言うまでもない。

少将になってから一年後、ピオニーの言葉通り、ゼーゼマンの後継として参謀総長の任に就いた時には誰一人として異論を挟むものはなく、ガルディオスの名と共にマルクト帝国の歴史にその功績を残

す事になる。

余談だが、この数年後の事になるが、女性恐怖症が治まってきたガイは、生涯の伴侶を得る事になる。

旧姓ジョゼット・セシル。

キムラスカ軍の少将であり、セシル家の血縁者である従姉弟だ。

美しく逞しい心を持ったジョゼットは、マルクト帝国軍少将であったフリングスと恋に落ちるも、フリングスの戦死により、その恋を終わらせていた。

そして二人を結び付けたのは、ファブレ公爵家の庭師である、ベールである。

ガイが、ピオニーよりガルディオスの名を復権させる事を命ぜられた時に、何よりもまずベールをキムラスカよりマルクトへ呼び寄せ

たのである。

ベールの本名は、ペールギュント・サダン・ナイマッハ。

ガルディオス家の盾・左の騎士と言われた人物で、ガイの育ての親でもあり、師でもある。

ベールは、後に生まれるガイとジョゼットの三人の子の面倒見役として、幸せに余生を送る事となる。

呼び寄せたその際に、ガイはジョゼット・セシルとベールを通して再び出逢う事となり、恋に落ちる。

ベールとセシルの件は、マルクト及びキムラスカの友好関係、そしてキムラスカ・ランバルディア王国の新国王アッシュと、その妻であるナタリアの計らいもあった事は言うまでもない。

結ばれた二人は、女の子一人と、男の子二人の子宝に恵まれる事となるが、生まれた女の子には、マリィベルの名が付けられた。

ガイが心から尊敬し、愛する姉、マリィベル・ラダン・ガルディオスから、その名を取って。

終幕。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5071q/

テイルズ　オブ　ジ　アビズ　外伝　第３章

2011年4月24日10時29分発行